

中橋の架け替えに関する事業の概要について

【概要】

渡良瀬川に架かる中橋は、昭和11年に架橋された、3連アーチが足利市を代表する景観として定着した美しい橋です。

しかしながら、朝夕を中心とした渋滞、老朽化や狭隘な幅員など通行の安全面での課題に加え、中橋が架かっている箇所の堤防が低く氾濫の恐れがあること、橋桁が低く洪水時の水の流れを阻害することなどにより、現状のままでは水害から市民の安全、財産を守れないといった課題があり、長年にわたり対策が検討されてきました。

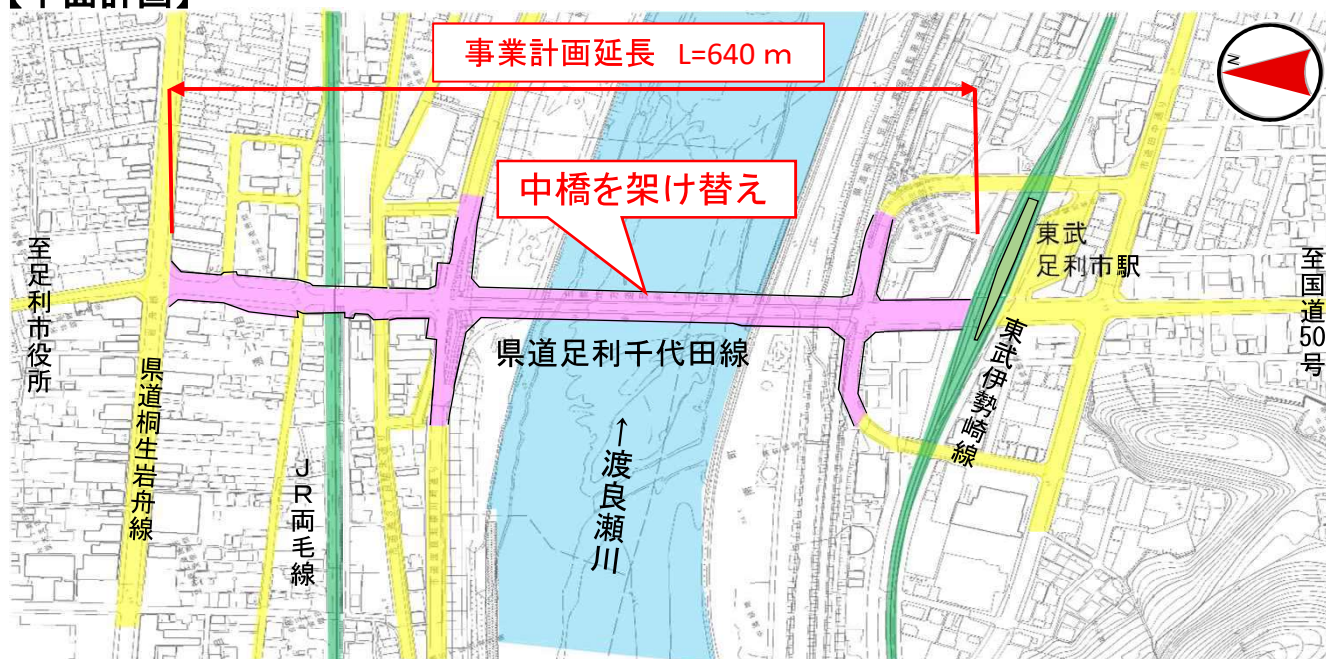
令和2年7月、渡良瀬川を管理する国、中橋を管理する栃木県、まちづくりを進める足利市は、中橋の架け替えに関する基本方針に合意し、堤防の嵩上げ及び中橋の架け替えを行うこととなりました。

架け替えに当たっては、現在の中橋のうち3連アーチの部分を下流側にスライドし、歩行者・自転車の通行空間として再利用するとともに、現在の位置に車道を中心とした新しい橋を設置する予定です。

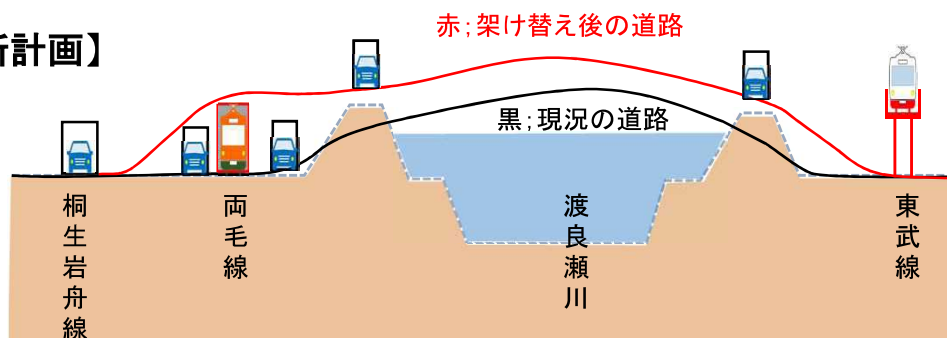
【位置図】



【平面計画】



【縦断計画】



【架け替えイメージ】

